

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

大学院環境生命科学研究科

部局長名：

村田 芳行

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①規程や内規における基準の明確化を行い、「教育の質保証」を進める。 ②Needs-drivenの学位プログラム化に向けた準備を進める。 ③研究科の魅力発信や優秀学生の積極的受け入れにより、大学院定員充足に努める。 ④「異分野融合」、「国際化」、「学部・他研究科連携教育の推進」、「きめ細かい学生指導」の4つを柱とした教育を継続する。 ⑤国際共同学位プログラムや学位につながるリカレント教育について検討する。 ⑥コンプライアンス教育、キャリア支援教育等の充実による高度教養教育の定着を図る。 ⑦アカデミックカウンセリングや修士・博士論文の中間評価等を実施し、課程の充実を図る。 ⑧UNCTADプログラムの継続、研究科横断FLEX BMD特別コースの充実、フェ大学院特別コースの継続、アジアならびにアフリカからの国内外社会人を中心とした入学者の確保を進める。 ⑨研究科シンポジウム・コロキウムや、国内外での研修・インターンシップ・フィールドワークを通じて、協定校との交流や日本人学生と留学生の共学の機会を拡大する。 ⑩JICA等の学生の積極的受入と奨学金の確保、大学院を修了して就職したOG・OBによる講演会、入学希望留学生への説明会、協定校との密な交流等の入学定員確保の取組を行う。	5-1-1 5-1-2 6-1-1 7-1-1 7-1-2	①規程や内規における基準の明確化を行い、「教育の質保証」を進めた。 ②自然科学研究科と学位プログラム化を進め、2023年4月からスタートするに至った。 ③研究科の魅力発信や優秀学生の積極的受け入れにより、大学院定員充足を実現した。 ④「異分野融合」、「国際化」、「学部・他研究科連携教育の推進」、「きめ細かい学生指導」の4つを柱とした教育を継続した。 ⑤国際共同学位プログラムや学位につながるリカレント教育について検討し、一部、協定案の作成に至った。 ⑥概論や特論を活用し、コンプライアンス教育、キャリア支援教育等の充実による高度教養教育の定着を図った。 ⑦アカデミックカウンセリングや修士・博士論文の中間評価等を実施し、課程の充実を図った。 ⑧UNCTADプログラムの継続、研究科横断FLEX BMD特別コースの充実、フェ大学院特別コースの継続、アジアならびにアフリカからの国内外社会人を中心とした入学者を確保し、定員充足につながった。 ⑨研究科シンポジウム・コロキウムや、国内外での研修・インターンシップ・フィールドワークを通じて、協定校との交流や日本人学生と留学生の共学の機会を拡大した。 ⑩JICA等の学生の積極的受入と奨学金の確保、大学院を修了して就職したOG・OBによる講演会、入学希望留学生への説明会、協定校との密な交流等の入学定員確保の取組を行い、定員充足に至った。
<b>②研究領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①研究大学「岡山大学」の一翼を担う部局として、研究成果のQ1ジャーナルからの公表とともに、英文ホームページ充実による積極的な情報発信を進める。 ②研究科シンポジウム、コロキウムにおいて、研究科及び海外の協定校の学生の発表の場を設け、研究力の向上に努める。 ③情報提供や説明会の開催や申請書の添削を行い、科研費申請数と採択率の向上、若手研究者の競争的資金申請支援を推進し、受託研究や共同研究の件数の向上に努める。 ④国際共同研究を推進し、国際共著論文数を増加させる。アジアやアフリカとの交流の活性化を図り、これら地域との研究交流構築の機会を設ける等の支援を行う。 ⑤ウーマン・テニュア・トラック教員として受け入れた女性教員がテニュア教員になるために必要な実績を着実に積み上げるための支援を継続する。 ⑥女性教員を含む若手研究者が海外の研究機関への滞在経験を通して岡山大学のグローバル化を推進することができるよう、経費申請への支援、派遣中の業務補充についての支援を継続・拡充する。 ⑦業務整理・授業集約等による研究推進力の増強に努める。 ⑧協定校や卒業生を活用し、研究科のジャーナルJESSSの更なる充実を図る。 ⑨博士後期課程学生ならびに入学希望者に、支援事業等の情報提供を積極的に行う。	8-1-1 8-2-1 8-1-2 9-2-1 9-1-1 9-1-2	①研究成果のQ1ジャーナルからの公表とともに、英文ホームページ充実ならびにホームページの多言語化による積極的な情報発信を進めた。 ②研究科シンポジウム、コロキウムにおいて、研究科及び海外の協定校の学生の発表の場を設け、研究力の向上に努めた。 ③情報提供や説明会の開催や申請書の添削を行い、科研費申請数と採択率の向上、若手研究者の競争的資金申請支援を推進し、受託研究や共同研究の件数の向上に努めた。また、地元企業による寄付講座を新たに2つ設置した。 ④国際共同研究を推進し、国際共著論文数を増加させた。アジアやアフリカとの交流の活性化を図り、これら地域との研究交流構築の機会を設ける等の支援を行った。 ⑤ウーマン・テニュア・トラック教員として受け入れた女性教員がテニュア教員になるために必要な実績を着実に積み上げるための支援を継続した。 ⑥女性教員を含む若手研究者が海外の研究機関への滞在経験を通して岡山大学のグローバル化を推進することができるよう、経費申請への支援、派遣中の業務補充についての支援を継続・拡充した。 ⑦委員会数を減らすなどの業務整理や授業集約等による研究推進力の増強に努めた。 ⑧研究科シンポジウムの発表に関わる内容の掲載等を行い、研究科のジャーナルJESSSの充実を図った。 ⑨博士後期課程学生ならびに入学希望者に、支援事業等の情報提供を積極的に行った。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①環境生命科学の教育研究拠点として、シンポジウム、公開講座、様々なメディアを通じて環境問題と食料問題に関する研究成果を地域、国、および海外へ、地域社会が求める知識と情報の積極的な提供を進める。YouTube動画の配信などメディア戦略の具体化も進める。 さらに、地域社会と連携した教育研究・共同研究を進め、持続発展教育(ESD)の普及発展とSDGsへの取組みを通じて、持続的な食料生産、および環境保全を目指す社会に貢献する。 ②国際交流協定の締結ならびに見直しを積極的に進める。また国際社会人特別コースをはじめ国際的に連携した教育研究プログラムを維持及び更に発展させることにより、国際的に活躍できる人材を育成し輩出する。加えて、輩出した人材との交流によって国際交流を促進する正のフィードバックメカニズムを確立する。 ③研究科の「低炭素・廃棄物循環研究センター」の活動等を通して社会貢献に努める。今後世界的に大きな展開が期待される「カーボンニュートラル」へ貢献する体制を整備する。 ④リカレント教育の推進、企業等との共同研究の推進を図る。 ⑤JICA等の国際機関との協力・連携を進める。	14-1-3 8-2-1 7-1-2 6-1-1 8-2-1	①環境生命科学の教育研究拠点として、シンポジウム、公開講座、様々なメディアを通じて環境問題と食料問題に関する研究成果を地域、国、および海外へ、地域社会が求める知識と情報の積極的な提供を進めた。特に、HPの多言語化を行った。 さらに、地域社会と連携した教育研究・共同研究を進め、持続発展教育(ESD)の普及発展とSDGsへの取組みを進め、持続的な食料生産、および環境保全を目指す社会に貢献できた。 ②国際交流協定の締結ならびに終結を行った。また国際社会人特別コースやサンドイッチプログラムをはじめ国際的に連携した教育研究プログラムを維持及び更に発展させることにより、国際的に活躍できる人材を育成し輩出した。輩出した人材との交流によって国際交流を促進する正のフィードバックメカニズムの確立を進めており、一部、効果的に機能している。 ③研究科の「低炭素・廃棄物循環研究センター」の公開講座等の活動を通して社会貢献に努めている。今後世界的に大きな展開が期待される「カーボンニュートラル」へ貢献する体制を整備し、同センターを中心に大学のカーボンニュートラルコアリションに貢献している。 ④リカレント教育の推進、企業等との共同研究の推進を図った。 ⑤JICA等の国際機関との協力・連携を進め、新たにJICAのベトナムのカントー大学のプロジェクトに加わり、スマート農業修士課程設立を目指している。
<b>④管理運営領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①国際展開、研究分野、教務分野および入試・広報の各分野の副研究科長を配置し、きめ細かい管理運営と、執行部と各専攻長との連携とを継続的に図りつつ、組織としてガバナンスが効果的に作用する体制の検証と改善に引き続き取り組む。 ②新研究科設置準備委員会への協力を行い、新研究科設置に取り組む。 ③教員活動評価において、アピールポイントを明確にし、各分野で要求されている目標の浸透を図り、各分野の質の向上と組織の活性化を推進する。 ④ウーマン・テニュア・トラック教員・女性教員の積極的採用とポストアップ教員への申請を継続的に行う。 ⑤研究科に配分された予算については、大半を基礎学部の旧環境理工学部・農学部へ配分し、効率的・戦略的配分を行ってもらう。研究科には、研究科長裁量経費を留め置き、ガバナンスを発揮して、研究科の重点的プログラムおよび入学定員充足に向けた方策に配分する。 ⑥全学展開を視野に入れた事業の開拓と既存の留学生プログラムを含む事業の全学展開を進める。 ⑦専攻長会議および教授会、研究科必須授業等で、安全衛生を含めたコンプライアンス遵守の周知徹底と遵守意識向上を図る。 ⑧入学者選抜方法の見直し・改善を行い、定員充足につなげる。 ⑨理系部局と連携して、With CORONAに向けた新しい様式の確立に取り組む。	15-1-2	①国際展開、研究分野、教務分野および入試・広報の各分野の副研究科長を配置し、きめ細かい管理運営と、執行部と各専攻長との連携(相談や情報交換の機会の増加等)とを継続的に図りつつ、組織としてガバナンスが効果的に作用する体制の検証と改善に引き続き取り組んだ。 ②新研究科設置準備委員会への協力を行い、新研究科設置に取り組み、新研究科の設置に至った。 ③教員活動評価において、アピールポイントを明確にし、各分野で要求されている目標の浸透を図り、各分野の質の向上と組織の活性化を推進し、また、構成員からの意見に対応した。 ④ウーマン・テニュア・トラック教員・女性教員の積極的採用とポストアップ教員への申請を継続的に行った。 ⑤研究科に配分された予算については、大半を基礎学部の旧環境理工学部・農学部へ配分し、効率的・戦略的配分を行った。研究科には、研究科長裁量経費を留め置き、ガバナンスを発揮し配分した。 ⑥全学展開を視野に入れた事業の開拓と既存の留学生プログラムを含む事業の全学展開を進めた。 ⑦専攻長会議および教授会、研究科必須授業等で、安全衛生を含めたコンプライアンス遵守の周知徹底と遵守意識向上を図った。 ⑧入学者選抜方法の見直し・改善を行い、定員充足につなげた。 ⑨理系部局と連携して、With CORONAに向けた新しい様式の確立に取り組んだ。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。